

シラバス（授業計画）

学科名	動物管理科				コース名	トリマーコース		
科目名	しつけ行動学					必修・選択必修の別	選択必修	
実施期	1年	前期	28 時間	後期	28 時間	授業時間数合計	56 時間	
	2年	前期	時間	後期	時間			※授業50分を1時間とする。
担当講師	富澤 彩							
	実務経験	有	中村学園職員として在籍中はドッグトレーニング実習担当。その間AAA活動にも取り組む。退職後ドッグトレーナーとして独立。主張しつけ方レッスンやしつけ方講座などを行う。					
授業概要	①犬のプロとして必要とされる知識（生態・行動学・ボディーランゲージ・社会化・ホリスティックケアなど） ②飼い主様方に寄り添ったアドバイスがご提示出来るように、現代社会における犬の飼い方・仔犬の育て方・商品知識。などを学ぶ。					授業形式	講義	
到達目標	犬の行動学・ボディーランゲージなど「犬に関する知識」を正しく理解する。 飼い主様方へアドバイスするための知識、適切かつ安全に飼育管理をする為の知識の習得。							
教科書・教材・服装等	いっしょにハッピー 子犬の育て方・しつけ、筆記用具							
授業計画時間数	授業内容							
1	自己紹介・持ち物確認・評価方法説明・授業概要説明							
2	トリマーに必要とされる知識・技術とは（なぜトリマーに行動学が必要か？・飼い主様から見た犬のプロと							
3～4	犬の起源・オオカミとの違い・様々な犬種が生まれた経緯・グループ分けと犬種特性に合わせた犬との関わ							
5～6	犬を飼う前に知っておきたいこと（5 フリーダム・飼育予算・畜犬登録・ワクチン・外部寄生虫予防・避妊							
7～8	犬の購入方法・犬を飼う前に用意する物品と環境設定							
9～10	ボディーランゲージ・カーミングシグナル							
11～12	ライフステージ別の犬の変化（社会化期）・社会化							
13～14	犬の学習パターンについて（古典的条件付け、オペラント条件付け）、強化子の種類							
15～16	犬の学習パターンについて（古典的条件付け・オペラント条件付け）復習・毛の刺激を用いたトレーニング							
17～18	連続強化・部分強化・転嫁行動・転位行動							
19～20	刺激般化・消去・消去バースト・自発的回復							
21～22	問題行動の対応（飛びつき、要求）							
23～24	商品知識（おもちゃ）・遊び方テクニック							
25～26	問題行動の対応復習							
27～28	定期試験範囲の説明と対策・総復習							
29～30	前期復習							
31～32	ホリスティックケア							
33～34	商品知識（首輪、リード、胴輪、引っ張り防止補助道具、食器、口輪など）							
35～36	ドッグフードのバリエーション、食餌に関する注意点・お悩み							
37～38	トイレトレーニング・トイレに関するお悩み							
39～40	クレートトレーニング・災害時対策							
41～42	歯磨き・お散歩マナー・犬連れ旅行の準備と必要なしつけ							
43～44	動物病院の選び方・ご自宅でのお手入れと慣らし方・体を触られることに慣らす							
45～46	犬の学習パターン復習・問題行動の対応（吠える、破壊）							
47～48	問題行動の対応（甘噛み）							
49～50	基本のトレーニング知識（オイデ、待ってなど）							
51～52	ライフステージ別の犬の変化（シニア期）・介護・看取り・エンディングノート							

53～54	多頭飼い・総復習			
55～56	定期試験範囲の説明と対策・総復習			
成績評価方法	・出席率	定期試験	○	筆記試験
	・定期試験や小テスト			実技試験
	・平常点（提出物・授業参加意欲など）			実施しない
成績評価基準	A評価	出席率90%以上・定期試験や小テスト90点以上・平常点 優れている		
	B評価	出席率80%以上・定期試験や小テスト80点以上・平常点 普通		
	C評価	出席率80%以上・定期試験や小テスト70点以上・平常点 やや劣る		
	F評価	C評価の基準を満たしていない場合		